

平成 28 年度 工学部 FD 講演会

甲斐 敬美（環境化学プロセス工学科）

平成 28 年度の第 1 回の工学部 FD 講演会は、稲盛会館にて平成 28 年 10 月 17 日（月）14:30 から 16:00 まで、千葉大学工学部共生応用化学科教授の斎藤恭一先生に講演をしていただいた。講演題目は「ベスト・ティーチャーになる方法」である。講演会への参加者は、87 名（工学部教員：74 名，他学部教員：7 名，事務・技術職員：6 名）であった。



第 1 回 FD 講演会

講演では千葉大学工学部でのベスト・ティーチャー賞の設定と廃止の顛末を紹介していただいた後、「教育力」をつける方法についてお話をうかがった。それは、他人の講義を聴いて学ぶこと（つまり感動する講義の特徴を把握すること）、教える技術を身につけること（時間（間）と空間（黒板）を制御すること）および大学から出て教えてみるということ（学生は我慢して聴いていると気づく）であった。それぞれについて具体的な説明がなされた。また、大学の製品は授業であることを強調されていた。つまり、大学にとっては、よい授業をする熱意のある先生をもっていることが最重要事項である。

2 回目の工学部 FD 講演会は、機械工学科 13 号教室において、平成 28 年 12 月 6 日（火）



16:10 から 17:40 まで、岡山大学 理事・副学長（大学改革担当）の谷口秀夫先生に講演をしていただいた。講演題目は、「大学改革の現状と将来」で、講演会への参加者は 60 名（理事 1 名，工学部教職員 45 名，他学部教員 6 名，事務職員 8 名）であった。講演ではミッション再定義の確認から始まり、大学改革プランの位置づけ、国立大学改革強化推進補助金へと話は及んだ。

第 2 回 FD 講演会

また、入試制度の改革も求められているが、高大接続システムの改革についての全体的イメージを明確にした上で選抜方法の改革を考える必要性についても述べられた。最後に、第3期中期目標・中期計画と戦略について、岡山大学でのこれまでの取り組みおよびその成果について紹介されるとともに、今後の大学改革についての課題も示された。また、現在、岡山大学で進行中の全学60分授業・4学期制の状況についても紹介いただいた。自分たちの大学の立ち位置を知ることと、改革の方向を明確にすることの重要性が強調された。

また、理工学研究科、理学部との共同開催で平成28年10月13日（木）13時30分より15時30分まで、理工系総合研究棟プレゼンテーションルームで講演会を開催した。講師は九州大学教授原田恒司先生で、「理系（専門）科目でのアクティブ・ラーニング～失敗なんか怖くない～」と題して講演をしていただいた。講演会への参加者は、教員45名（理系：12名，工系：32名，他学部1名），事務・技術職員16名と学生4名の合計65名であった。原田恒司先生の講演に関しては、平成28年度理工学研究科FD報告書に掲載されているので、詳細はそちらを参照されたい。